



努力する人間を  
運命は決して裏切らない  
結果は努力の積み重ね

学問の領域に限らず、ピアニスト、バイオリニストなどの音楽家、スポーツ、映画監督、碁や将棋の名人、芸術などの分野でいわゆるプロと称されている人は皆、その段階に到達するまで、例外なくそれぞれの専門にだけ集中し、たゆまぬ努力をしている時間を共有していることが知られています。その時間は10,000～20,000時間といわれていますが、1日あたり5時間をそのことだけに費やすとすれば6～12年かかることとなります。相田みつをの言葉に「一生勉強、一生青春」がありますが、継続は力なりを信じて、学生時代に自分の選んだ分野でプロに近づく努力・工夫をされることを期待しています。



## 大学院、多様化と国際化

研究科長 教授 竹内 孝治

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。将来に大きな夢と希望を持って京都薬科大学に入学されてきたと思います。本学は、昨年度で4年制学部が原則として終了となり、4月からは6年制学部のみでの新たな一歩を踏み出しますが、今年度は6年制カリキュラムの重要項目であるCBTやOSCEの初本番もあり、学生共々、教職員も気を引き締めて掛からなくてはなりません。研究科においても、6年制学部に基づいた4年制大学院の設立準備が本格化し、2012年春の始動に向けて万全の体制で望む所存です。

大学院では、薬剤師養成という職能教育と共に薬学研究者の養成のためのサイエンス教育も重要視しており、研究能力を備えた医療人や優秀な次世代創薬を担う人材を育成すべく思っております。政府は「イノベーション25」の声明において製薬産業を日本の産業界振興のリーダーとして評価し、創薬研究を国家戦略上の最重要課題として打ち出しており、また平成19年には文科省、厚労省、経産省の共同声明として、「画期的医薬品および医療機器創出のための5ヶ年計画」も出しています。このような国家政策は国際競争力の強化において重要であり、産学官の協力により進めなければなりません。本学大学院も優秀な創薬科学者を輩出することによりこの政策に貢献すべきであり、またそれが十分可能であると思っています。本学では、これまでに「21世紀COEプログラム」をはじめ、「ハイテクリサーチ」、

「オープンリサーチ」など、複数の文部科学省支援プログラムが展開されてきており、素晴らしい成果を挙げて来ました。特に21世紀COEプログラムでは、発足と同時に国内外からポスドクも含め、様々なレベルでの研究者の来訪、滞在が極めて活発になり、大学院生に大きな刺激を与えてきました。また瀋陽薬科大学との研究連携、滋賀医大や京都府立医大との臨床連携プログラムなども進行中であり、大学院生は広い領域の講義を聞くことが出来ると共に、世界の研究の最先端に直接触れることが出来る環境も整っています。今年度は複数の戦略的基盤研究支援事業への申請やグローバルCOEプログラムへの挑戦も予定しております。これらのプロジェクトへの参加は、博士課程の学生が今後も経済的サポートを得て様々な研究領域で取り組むための基盤をつくるものであり、多いに期待しています。

ところで、学問には“統一性”と共に“多様性”も要求されますが、後者は学問の“普遍性”にも通じるものであり、仮説の正当性を立証するためには非常に重要です。様々な分野の研究において、これまで多くの優れた先人達により貴重な知見が得られています。仮説を立てる場合には不都合な過去の知見も当然あるわけですが、それらも含めた上での提言が重要です。“温故知新”という言葉がありますが、過去に得られた知見も考慮した上でこそ真の提言が可能であり、このプロセスこそ真の“Re-Search”であると思います。大学院も、今後、様々な点で“多様性”が求められてきます。本学では、現行の5年制大学院(博士前・後期課程)に加えて、4年制大学院(博士課程)、さらには京都府立医大、京都府立大および京都工芸繊維大との連携による共同大学院の設置も予定しています。薬学出身者だけでなく、理学、工学、農学などの他学部、および高等専門学校専攻科の出身者などに加えて、国外にも広く志願者を募り、入学者の経歴の多様化および修了生のキャリアパスの多様化も目指します。学生は大学院で多様な人々と出会い、様々な考えや意見に接し、知性と共に独創的なアイデアを産み出す感性を磨き、学問の“多様性”を追究する礎を築いて欲しいものです。

薬学はライフサイエンスの中心として、大きな夢とロマンを追求することが出来る学問です。6年制薬学を修了した人も、出来るだけ大学院へ進学することにより、薬学教育者、創薬研究者、および研究能力を備えた医療人として育てて戴きたいと思いません。



## 長いようで短い6年間

教務部長 教授 谷口 隆之

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。アレもしたい、コレもしたい、と大学生活に希望と期待で胸をふくらませておられることでしょうか。大いにエンジョイしてください。そのなかで、皆さんに認識していただきたいことがあります。皆さんは薬学部薬学科の1年次生だということです。

6年間の薬学部薬学科の課程を卒業すると、薬剤師国家試験受験資格が与えられることはご存知だと思います。そして皆さんは全員、薬剤師国家試験に合格し薬剤師免許を取得されることを希望されていることでしょうか。6年間は長いようですが、意外と早かったと感じられると思います。それは、6年間の中味が充実しているからです。現在、6年制カリキュラムが順次進行し、4年次が最高学年ですが、実務実習（5ヶ月間の病院・薬局実習、5年次で行います）へ行くための共用試験が4年次の後期にあり、これに合格しなければなりません。この共用試験には、実務に関する技能・態度と知識を問う試験があります。この共用試験に合格し、4年間の必要なすべての単位を修得した学生が、5年次に進級して実務実習に行くことができるのです。それ以外にも、1年次には早期体験学習などや、2年次からは専門科目と学生実習が、また3年次からは、総合薬学研究・演習がはじまり、6年次には先端薬学概論や専門薬剤師概論、といった様にさまざまな講義科目・実習・演習を毎年次修得していくこととなります。学年の進級にはそれぞれの年次毎に定められた必要な単位を修得して初めて上級の学年に進級できるのです。この事は当たり前前、といえは当たり前前なのですが、最近の1年次生の中に大学生になったことで遊びが中心となり、遊びグセが付いてしまったヒトを見かけるようになりました。薬学部の専門科目は質・量ともに多く、しかも2年次からは専門科目が多く配当されているので、1年次生時の遊びグセが尾を引いて、2年次から3年次への進級時に留年するヒトが多くなって来ました。

皆さんの中には大学に入れば受験から解放されるのだから、少しは遊ばなくては、少しはアルバイトしたい、と思っているヒトが少なからずいるということです。しかしながら、なかなかその「少し」の程度をコントロール出来ないヒトが増えているのが現状のようです。これが、留年生が毎年出る要因の一つかもしれません。ぜひ自己をコントロールして、勉学、趣味、クラブ、アルバイトなどを上手に

取り入れ、時にはリフレッシュし、京薬生として充実した学生生活を送り、6年後の薬剤師免許取得と希望する就職先決定をぜひ成し遂げて下さい。

教務部の仕事は日々の講義、実習、演習などの他、様々な学生生活に関わっています。何かありましたら、教務課をたずねて下さい。皆様の大学生活のために課員一同、お役に立てればと考えていますので、よろしくお願い致します。



## ご入学

おめでとうございます

学生部長 教授 浜崎 博

「みなさん、みなさんは本当の幸せって何だと思いますか」、これは2004年7月2日、大牟田市で開かれた小中学生らの弁論大会で、13歳の少女が語りかけた最初の言葉です。少女は骨肉腫を患いながら「命を見つめて」の題で作文を読み上げました。その2ヶ月半後に亡くなりました。朝日新聞、2月8日朝刊の記事です。全文1419字の中に心を打たれる内容がぎっしり詰まっていました。一部を紹介しましょう。

「実は、幸せが私たちの一番身近にあることを病気になるまでおかげで知ることができました。それは、地位でも、名誉でも、お金でもなく『今、生きている』ということなんです」、また「私の大好きな詩人の言葉の中に、今の社会のほとんどの問題で悪に対して、自分には関係ない、という人が多くなっている。自分の身に降りかからない限り見て見ぬふりをする。それが実は悪を応援することになる」とも言っています。そして、最後に「みなさんも、今生きていることに感謝して、悔いのない人生を送ってください」と結んでいます。

遅れましたが新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎いたします。皆さんは、大学生活とはどんなものか楽しみに、そして何をしようか心待ちにしておられることでしょうか。

学校生活、自宅、地域など様々な枠の中で生活してきたこれまでから離れて自由に活動することができます。何でもできます。その一方で、自由だからこそ自己管理や自らルールを守ることが大切になってきます。これから6年間、いろんなことがあるでしょう。楽しいこと、悲しいこと、つらいこと・・・予想もできないと思います。

皆さんは、人の命に関わる医療従事者の道を進んでいくこととなります。どのようなルールにもまづ

自分に対し厳しくあって下さい。見て見ぬふりをしないでください。友達同士、切磋琢磨してお互いを高めてください。

13歳の少女、猿渡 瞳さんは死の直前まで精一杯生き、感謝の気持ちを持ち続けました。

皆さんも、しっかり楽しみ、かつ充実した大学生活を送り、そして6年後すばらしい薬剤師として巣立ってください。

学生課は、そのような皆さんの大学生活全てに関わり、お手伝いさせていただく窓口です。

いつでもお越しください。スタッフ一同お待ちしております。



## 地に根を張るために

進路支援部長

教授 後藤 直正

柔らかい陽光が若葉の芽吹きをもたらす季節が巡ってきました。冬の季節を過ごされた新入生の皆さんは、今まさに若葉のときを迎えられました。若葉は陽光によって新緑、万緑となり、樹木は大地に確固たる根をはります。さて、これから皆さんは大学での学業や課外活動という陽光を受けて6年間を過ごされます。進路支援の立場から一言アドバイスをしたいと思います。

在学中にせねばならないことはたくさんあります。「キャリアデザイン・キャリア形成」は進路では重要なポイントです。聞きなれぬ用語で戸惑われるかもしれませんが、簡単なことなのです。将来何をしたい、また自分にフィットする職業はなにかを知り、その実現に向かって進むことです。

皆さんは将来、「薬剤師として---」や「薬学を学んだものとして---」といった、何をしたい、どのような職業に就きたいという夢を描いて入学されたことと思います。この夢がキャリアデザインの出発点です。入学時の夢が現実に進路に繋がる場合もありますが、進路を決定すべき約5年後、夢が変わらないということはまれなことでしょう。しかし、入学時の進路希望が変わったとしてもなんら問題ではありません。問題なのは、在学中に自分を見つめることを怠ることです。在学中には、早期体験学習、薬学の基礎や人間形成のための教科、薬学の専門教科に関する講義・実習や実務実習など、皆さんがどのような進路を描こうと、それに必要な陽光とでもいべきカリキュラムが準備されています。盛りだくさんの内容で、それをこなすことは大変なことかもしれませんが、勉学をこなすことにのみ専念するので

はなく、それらの勉学のなかで、自分の「夢の検証」を何度も行なって戴きたく思います。描いている夢は自分に向いているのか？別の道のほうが向いているのではないかと、常に考えること、これが自己のキャリアデザインであり、6年後に大地に根を張った将来を獲得することになるのだと思います。自己の将来を考えながら大学生活を楽しんでいただきたいと思います。

もうひとつ、薬学というのは社会から隔絶された学問でも、領域でもありません。社会の動向などに大きな影響を受けます。インターネット情報、新聞情報など社会の動向を知ることもし忘れないようにして欲しいと思います。6年後に大きな樹木となられることを祈りつつ、アドバイスを贈ります。

## 定年退職のご挨拶



薬学教育系

教育研究総合センター

薬学教育研究センター

教授 井上 武久

本学に偶々入学してしまった小生が、卒業できたのは大学での素敵な仲間との出会いのおかげです。卒業後長きに渡り奉職することになったのは、恩師正田芳郎先生からの「大学に残れ」の一言に始まったと記憶しています。最初から好奇心の赴くままに好きな仕事をやらせて頂きました。他の分野の勉強がしたいと言う我儘な要望を聞いていただき、内地留学させてもらったことを今も感謝しております。人の未来は何が起きるか分からないから楽しいと言うことでしょうか。当時、小生の周りには、何故か何時も個性豊かな、とんでもない（快活な？）反ゼロトランス的な少数派の学生さんばかりが集まって来ました。薬学部6年制を先取りしていた？彼らを何とか卒業させなくてはと思う気持ちから“愛があれば暴力も可”と云う勝手な理屈で、彼らに登校拒否を理由に何回パンチを食らわせたでしょうか、懐かしい思い出です。しかし、彼らの卒業後の社会でのすばらしい活躍を見ていると、大学の学生評価は、人間の質や能力を云々している訳でないと言うことが良く判ります。荏苒と日を過ごしてきた小生も快活な彼らに反面教師として少しは役立ったのではないかと考えています。“青は藍より出でて藍より青し”を実感している昨今です。

時代を経て平成7年当時、以前ラグビー部顧問をして頂きお世話になった大幡勝也学長から今までの研究室単位の組織体系とは異なる “教育研究セン

ター構想”の話をお伺いし、その一翼を担うことになりました。振り返りますと、若い時代から力不足ではありましたが“後輩を育てる”をマイスローガンに行動してきた小生が、薬学教育研究センターへの配属を拝命したのは天命であり、本当に僥倖に恵まれたと感謝しています。育てるつもりが逆に“後輩に育てられていた”ことに気づき、今日に至りました。

最近、心身ともに“労害”を自覚するような体験が多くなってきました。定年はなかなか良い社会制度であると感心しているところです。自覚症状のある内にマッカーサーのように「ただ老兵は去るのみ」とコーンパイプを銜えてカッコよく？紫煙とともに後は“後輩の皆様”に託し消えていきたいと思えます。最後に、学生諸君、教職員の皆様のご健勝と活躍を祈念し、退任の挨拶とします。ありがとうございました。



薬学教育系  
教育研究総合センター  
臨床薬学教育研究センター  
教授 金澤 治男

この山科の地で、学生時代を含めほぼ半世紀近く（46年間）の長きに亘り、本学の教職員の皆様、学生諸君とともに充実した時間を共有させていただきましたが、平成21年3月末日をもって退職いたしました。この間、何かと多大のご指導・ご厚誼を頂き有難うございました。厚く御礼申し上げます。

本学に在籍させていただきました初期には、基礎の研究室（現、衛生化学分野）で蛋白質化学、酵素化学の教育・研究を通じて学生諸君と接していましたが、14年前、大幡勝也学長より基礎に立脚した医療薬学教育の研鑽を積む機会をいただき、平成8年4月から、新設された臨床薬学教育研究センターにその場を移しました。当時は、今日の薬学教育の臍げな方向性は示されていましたが、そのカリキュラム・移行時期等については不明確な状況でした。ところが事態は急展開し、平成16年5月14日に学校教育法一部改正法案が成立し、平成18年4月より薬学教育6年制がスタートすることになりました。

この薬学部始まって以来の大改革の時期に本学に在籍し、薬学教育6年制の特色である早期体験学習の立案・実施、長期実務実習関連の検討などに参画できましたことは大変幸運でした。6年制教育はこの4月に折り返し点を過ぎ、まず4年次生の学生諸君より長期実務実習の事前学習、続いて医療現場での研修に入ります。古代インド哲学では、人間の一生をがくしょうき 学生期、かじゅうき 家住期、りんじゅうき 林住期、ゆぎょうき 遊行期に分けて考えるそ

うです。学生諸君は、よき医療人として活躍する“家住期”の前に、多くのことを学び、研鑽を積む“学生期”にいます。本学の素晴らしい先生方にご教示いただいている『研究する心』を常に持ち、地上に咲く花だけでなく土の中に隠れている根も見よう、実務実習にも臨まれることを期待します。

薬学教育6年制の完成途上ではありますが、今まで微力ながら誠心誠意努めさせていただき、いわば山頂を極めた心持ちです。これからは“林住期”に入り、お遍路でのお大師さんならぬ、同行二人でゆったりと眼下の風景を俯瞰し、足元の綺麗な花を愛で、また、頂上を振り返って『他大学と差別化した』素晴らしい本学を見上げながら下山していき、心安らかな“遊行期”に移行していければと思っています。末筆になりましたが、本学の幾久しい発展と教職員の皆様のご活躍、学生諸君のさらなるご研鑽を祈念し、筆を擱きます。



病態薬科学系  
薬理学分野  
教授 河野 茂勝

私が京都薬科大学・薬理学教室に講師として参りましたのは1980年4月でした。当時の薬理学教室の教授は大幡勝也先生で、大幡先生が炎症と中枢神経関連の薬理学を研究されており、私が炎症と関連深いアレルギーを研究していたこともあって受け入れていただきました。以来29年、長いようで、振り返ってみれば非常に短い年月でした。この3月で無事退職することになりましたが、この大学で縁あって多くの方と知り合うことができ、親しくお付き合いをいただきましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。

本学学部も6年制の1期生の学生さんが本年度は4年次生となり、いよいよこれまでとは異なった方向付けのために、講義内容やその進め方が大きく変化しつつあることを痛感しております。

どの自然科学の分野も同じですが、現在はいろいろな情報が溢れ、それらの知識を身に付けるだけでも大変な努力が必要であると思います。日本語は曖昧な表現が多く、科学を学ぶ人間にとって正確な意味を掴みにくいこともたびたびです。したがって、私が薬理学の講義をおこなう際に作成したテキストには、文章に加えてできるだけ図を用いるよう心掛けました。十分とは言えませんが、自分では努力を惜しまなかったつもりです。特にこの1年は、最後の踏ん張りと思い、睡眠時間を削ったこともたびたびでした。

何かを一念発起して行おうとするならば、必ず犠牲を伴うものです。眠りたいけれども眠るわけにはいかないこともありましょうし、遊びたい時、休みたい時にそうはいかないこともあるでしょう。そういったことを乗り越えて自分を処した時、人間は充実感と自負を持ちうるように思います。

学部生のみなさん、これからの長い人生、「こだわり」を持って過ごしてください。「こだわり」とは、自分にしかできないこと、自分がやろうと決めたことを最後までやりぬく強い意志ともいえるでしょう。「こだわり」を持つことで自分の弱さを克服できる人間になって欲しいと思います。

最後になりましたが、これまで支えていただいた多くの皆さんに、厚く御礼申し上げますと共に、京都薬大のますますの御発展と皆様方の御健勝を心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。



生命薬科学系  
公衆衛生学分野  
教授 平山 晃久

昭和42年3月(1967年)に京都薬科大学を卒業し、そのまま、衛生化学教室の副手、その年の8月から助手となって以来、この3月で大学生活は丁度42年となりました。

衛生化学教室は、現在の本校地の3号館の位置にあり、昭和7年(1932年)に京薬が山科の地に移転した当時の建物の1階にありました。手狭な研究室で、実習の無い時は学生実習室、実習の有る期間は木造の空部屋を研究室として使用していました。現在の学生さんでは考えられないと思いますが、冬にはガスストーブが広い実習室に1個だけ、器具の洗浄には湯沸し器も無く、手にはアカギレができていました。

夏は古い建物だったので、薄暗く、窓は開閉が不能になると溶接で固定し、おまけに土の床だったので、雨が降ると湿気で注意して歩かないと滑るという始末でした。もちろん扇風機もなく、夏は汗疹(アセモ)だらけでした。男子学生はランニングと半ズボンの上に白衣、女子学生はスリッパのような下着の上に白衣という今では想像もできないような恰好で実験をしていました。

教室主任は、一昨年12月に99歳でご逝去された藤川教授で、明治生まれの先生で公私混同も甚だしく、先生の自宅の大掃除には休みに駆り出され、庭の夏ミカンの収穫にも駆り出されたものでした。もし、現在のスタッフにそのようなことをさせたら大

問題になるところです。

それでも、先生が定年を迎えられる昭和48年には、先生のお知り合いの阪大薬学部生薬学講座の吉岡教授へお願いして頂き研究生になり、その3年後には吉岡先生のもとで学位を頂きました。学部卒でしたが、丁度9年で学位が取得でき、その時が薬学教育・研究の道のスタートでした。今振り返っても、昨日のこのように目に浮かびますし、藤川先生には頭が下がります。

薬学部6年制が2006年4月から始まり、もちろん、京都薬科大学は6年制一貫教育になっており、進路としては病院の薬剤師、薬局の薬剤師が主な職種ですが、一部は都道府県の保健所や薬事行政に携わる公務員、製薬企業に勤められる方も予想されます。本年4月から6年制の学生は最高学年が4年次生になります。一番大変な時に力になれなくて申し訳ありません。

最後に、京都薬科大学の益々の発展と、学生の皆さんの勉学の追及と学生生活の謳歌、教職員の皆様のご健勝をお祈りし、退職の挨拶とさせていただきます。



生命薬科学系  
衛生化学分野  
教授 藤本 貞毅

37年間の長きに亘り教員として勤めさせていただき、この度、定年での退職を迎えました。本学学生としての4年間を含めると実に41年間という、私の人生の2/3近い年月を京都薬科大学のキャンパスで過ごさせていただいたこととなります。母校教員としてなんとか無事に勤め上げることができましたのも先生方、職員の皆様方のお陰と深く感謝いたしております。

1972年4月、旧生化学教室の助手として採用いただいたその翌年、3学科制(薬、製薬、生物の3学科)の施行に際して創設された生化学Ⅲ教室に配置替えとなり、臨床生化学(当初は臨床化学)の講義を21年間に亘り担当させていただきました。更に、その後の大幅なカリキュラム改正では、同教室の衛生化学教室への名称変更に合わせて担当科目が変更となり、新たに生物学及び衛生化学(6年制では栄養と健康)の講義を退職迄の15年間担当してきました。担当科目の変更の際には、その都度私なりに伝えるべき知識の修得に努め、新規講義に対応してきたつもりですが、当初から充分に対応出来たかと問われると疑問符のつく部分もあったことは否めず、当時の卒業生の寛大さに助けられたという想い

もあります。講義は私自身の勉強の場でもあり、特に、卒業以来基礎生化学（酵素化学）の領域を歩んでいた私にとって、就任後の早い時期に臨床生化学の講義を通じて医療の領域に触れられたことは後々の医療薬学を指向した薬学教育に携わる上で幸いでありました。37年という長い年月にも関わらず、今振り返って決して長かったという意識はなく、何時の間にか過ぎてしまったという想いがあります。それは研究室において、所属する学生諸君に対する指導責任の重圧を感じながらも、毎年、新しい卒論実習生や大学院生を迎えて気持ちを新たに過ごせたことによるものと思います。その間には様々な気苦労もありましたが、良き学生諸君に巡り合え、研究を通じて共に勉強させていただいたことは幸せでした。

4年制薬学教育の最終年となる学生諸君が卒業となった今、後に続く6年制の学生諸君が、歴代卒業生

と同様、高い社会的評価の得られる人材に育っていかれることを期待しております。そして、6年制教育の充実に向けて何かと一層厳しい教育環境が予想されますが、そのような状況下でも「ゆとり」を感じさせる大学であってほしいと願うものです。

最後になりましたが、学生諸君の有意義な学生生活と教職員の皆様方のご健勝を祈念いたしております。長い間ありがとうございました。

## 「卒業生からのメッセージ」

### 目からウロコ



#### 中尾 晃子

平成2年薬剤学分野卒業  
アストラゼネカ株式会社  
研究開発本部  
臨床開発統括部  
初期臨床開発部  
クリニカルリーダー

皆さん読書は好きですか？私は活字を読むのは正直苦手なのですが、そんな私でも夢中になった本があります。私の目からウロコを落とすと同時に、「もっと早くこの本を読んでいれば・・・」と私に悔しい思いさせる本でした。後輩にメッセージを、と事務局の方から連絡を頂き、その本を紹介しては？と思い立ちました。目からウロコの体験は、早めにするに越したことはないと思うのです。

ところで、私の仕事は、海外の研究所から届く抗がん剤の候補化合物に関して、アジアでの初期臨床開発計画を作って実施するチームをリードすることです。ドラッグラグが取り沙汰される昨今、日本におられる患者さんが早く新薬にアクセスできるか否か、このことに企業の活動が少なからず影響をしているのだと思うと、身の引き締まる思いがする毎日です。新しい化合物を薬に育てるには多くの難問があります。しかし、各国に点在する仲間と時差や文化的背景の違いを越えて議論しながら仕事を進めるのは楽しいことでもあります。こう書くと今の私は問題なく毎日仕事を楽しんでいるように聞こえるかもしれませんが、ここまで来るには沢山の困難があ

りました。今でも解決できない問題は沢山あって、その難度は日に日に高くなっています。それでも「楽しんで戦っていこうじゃないの！」と思えるようになったのには、多くの理由がありますが、これから挙げる本にも助けられました。

『アルケミスト』：ある少年の旅を通して、諦めないことの大切さ、困難に立ち向かう勇気について教えてくれる本です。世界的ベストセラー。

『7つの習慣』：時間管理、人生の目標設定について納得の説明をしてくれる本です。今の大学のカリキュラムでは上級の英語の勉強をされる方も多いと聞きました。是非原書で読んでみてください。世界的ベストセラー。

『不機嫌な職場』：現在多くの企業が抱えている問題の原因と解決法を提案する本です。企業への就職をお考えの方、読んでみると面白いと思います。

今から思えば学生時代は温室にいたようでした。外（社会）に出ると楽しいこともつらいことも沢山あります。つらいことを楽しいこと（自分を鍛えてくれる試練）だと信じて明るく立ち向かうことができればもっと毎日を楽しめるはずです。そして自分が最終的に行き着きたいゴールを見据えながら毎日を過ごすことは、闇雲に毎日を過ごすのとは大きな差を生むと思います。体に気をつけて、頑張ってくださいね！

#### 【参考図書詳細】

パウロ・コエーリョ（山川 紘矢、山川 亜希子訳）  
『アルケミスト—夢を旅した少年』角川文庫1997年  
Stephen R. Covey 『The 7 Habits of Highly Effective People』ペーパーバック1990年  
高橋克徳 他『不機嫌な職場—なぜ社員同士で協力できないのか』講談社2008年

ご入学おめでとうございます。何がおめでたいのだとすねている人もいるかもしれませんが、あなたは、これから将来の目標像が比較的確に設定されている薬系単科大学で6年間に亘る勉学を始めるのです。薬剤師の仕事は、単に薬という物質を取り扱うだけではなく、それを調べ投与する人々また投与され治療される人々との多様な関わり合いの中で営まれるのです。

研究室に所属するまでは時間的に十分な余裕が有るはずですが、クラブやサークルで友達の輪を作るのも大切ですが、同時にじっくりと教科書以外の書籍を読んでほしいのです。受動的な映像媒体だけではなく、能動的に自らの眼と心で活字を追ってほしいと思います。そのための手助けとして、各分野の先生方が幾つかの本を推薦してくれました。さあ、後はあなた方がそれを読み解き、人間性を豊にする真の教養を築くことです。

**推薦者：健康科学分野 教授 浜崎 博**

**書籍名：『養生の実技**

**一つよいカラダでなくー』**

**五木寛之著（角川書店、2004年）**

五木寛之氏は良く知られた小説家であり、また詩人でもあります。氏の小説は比較的大衆向けの、読みやすいものが多く有ります。「青春の門」、「大河の一滴」、「戒厳令の夜」、「四季・奈津子シリーズ」などは良く知られています。本書は書店でふと目にとまった本ですが、読んでみると非常におもしろい。氏の健康観が大変独特であり、しかも納得させられるものです。医学的な裏づけによるものでなく、氏の経験から、あるいは感覚的に感じた健康・養生でしょう。カバーの解説には「人間は死のキャリアとして生まれてきた。死を病院で救うことはできない。そうであるならば、病院にいかずに自分で延命する道はないのか。日ごろの用心がまず第一。治療では手おくれだ。治療より養生。これからの健康を考える上でのキーワードは、まちががなく養生である。」とあります。

読み始めると思わず引き込まれ、そして「うんうん、なるほど・・・」と笑いながら読める楽しい書でもあります。書の最後に「私自身の体験と偏見による養生の実技100」という章があります。そのいくつかを紹介しましょう。

- よく噛んで食べるが、週に一度くらいはあまり噛まないで呑みこみ消化器を目覚めさせる。
- 捻挫は少々痛くても歩いて治す。
- 常用している薬は、ときどき休む。
- 食べるときと、しゃべるとき以外は口を閉じる。息は鼻でする。口は呼吸の道具ではない。
- あまり清潔にこだわっていると、免疫力が落ちる。
- あす死ぬとわかっていてもするのが養生である。

どうです・・・一度読んでみませんか。

**推薦者：臨床薬学教育研究センター**

**教授 高山 明**

**書籍名：『薬剤師が変える薬物治療2**

**安全ながん治療と**

**テーラメイド医療に向けて』**

**監修 乾賢一（じほう、2008年）**

薬剤師とは「医師の処方せんに従って薬を調合する人」というイメージを持つ方は多いのですが、臨床現場の薬剤師は単に処方せん通りに調剤をしているだけではありません。科学的根拠（EBM）に基づく医薬品情報を基にした処方鑑査や、処方の適正化を目指した処方設計支援を行っています。すなわち薬物血中濃度の測定結果から、最適な投与量を推定し医師に情報を提供したり、病棟に出向いて患者さんと直接話をする（薬剤管理指導）ことにより、薬効や副作用のモニタリングを実施し、以後の処方に反映される取り組みを行っています。

今、薬剤師は社会から安心・安全な医薬品の提供と、医薬品の適正使用、リスクマネージメント、医療経済への貢献が求められています。また医療の高度化、先進化に対応できる薬剤師の養成が期待されています。すなわち薬学領域における医療薬学分野（薬理学、薬物治療学、薬剤学、薬物動態学、病院薬学、その他）の重要度がますます増加してきました。このことは薬学教育を6年制とし、病院・薬局での学外実習の義務化や、薬剤師国家試験（4年制対象）において医療薬学に関する問題が全体の半分を占めていることでも窺うことができます。

本書は医療の質的向上を目指した病院薬剤師の取り組みを紹介しています。様々な疾患を持った患者さんに対し、薬剤師として、治療上の問題点を発見し、解決を図った結果を示したものです。がん治療の安全性向上やテーラメイド医療に向けた取り組み、症例を契機とした基礎研究と医療への還元に関する具体例が提示されています。薬剤師はともすれば職人気質的なところがありますが、基本はScientistであるべきです。所属施設の大小に関わら

ずScientistとして活躍している薬剤師は全国に多数います。本書は将来の薬剤師像を描く参考になるものと考え推薦しました。

**推薦者：一般教育分野 准教授 秋澤 雅男**

**書籍名：『覚悟としての死生学』**

難波紘二著（文春新書380）

『死生観を問いなおす』

広井良典著（ちくま新書317）

難波氏は、1941年生まれで医学部を卒業し、本来血液病理学を専門とする大学の名誉教授である。広井氏は、1961年生まれで厚生省（現厚生労働省）を経て、現在大学で本来、医療や社会保障の政策研究を専門とする教授である。しかし、二人とも狭い専門領域を越え、生ある人に必然的な運命である死について様々に学生達に語ってきたか、また現に語っている。ドライで客観的な語りを読みたい方には、難波氏のを、一方ウェットで観念的な想いに浸りたい方には、広井氏のものをお薦めする。もちろん両方を合わせて読むのが、最も貴方の知的栄養となり教養を豊かにする糧となろう。

難波氏の本からは、些かショッキングなものを、「『死ぬ』と『殺す』は同じ現象を、見る立場を変えて述べているにすぎない」（14頁）、「…私は殺人権はもともと誰にでもあるもので、社会や文化や国家がそれを個人から取り上げ、必要に応じて個人（略）に返しているのだと考える。これが『正義という名目での殺人』の本質だ。（略）学生に聞いてみると人を殺したくなったことはある、と大半の学生が答える。あっても実際には殺さないのは、そのほうが長期的に見て自分に利益になるからだ。（略）相手も人間だとか、人間には生きる権利があるとか、答える学生もいるが、（略）『自己欺瞞』の一種にすぎない」（84-85頁）、と言う語りを取り上げてみる。この立場は、生得的な良心や純粹理性を疑う、ホブズ（T. Hobbes）の社会契約説とベンサム（J. Bentham）等の功利主義そして広義のプラグマチズムに基づくものである。氏は、この立場から同時に「国家が行う合法的殺人」である死刑制度の廃止を主張する。矛盾する発言だろうか。それは貴方が自分で考えることである。

広井氏の本には過激な表現は無く、生と死を「時間と永遠」の観点からじっくりと論ずる。つまり、「…私たちは通常、生=有 死=無というふうを考えている。しかしそうではなく、生=『相対的な有』と『相対的な無』の入り混じった世界」（=時間のある世界） 死=絶対的な無=絶対的な有（=永遠）」（205頁）と言うのが結論である。氏は、「私たちが生き認識している世界は、『有』に満ちているのではなく、むしろそこには無数の『無』が介在しており、しかもそうした無数の『無』によってこそ、世界は

ある安定した秩序を保っている」と語るのである。このような考え方は、後期のフッサール（E. Husserl）やメルロ・ポンティ（M. Merleau-Ponty）の現象学に基づくものである。要するに、生は相対的な境域であり、死は絶対的な境域なのである。後は、貴方が自分の死を見据えることで、生の貴重さを感じつつ考えることである。

**推薦者：一般教育分野 准教授 鈴木 栄樹**

**書籍名：『喜びの泉 ターシャ・テューダー**

**と言葉の花束』**

ターシャ・テューダー著/倉野雅子訳

（メディアファクトリー、1999年）

これは、大人の絵本です。昨年6月18日に92歳の天寿を全うしてこの世を去った絵本画家であり、また園芸家・人形作家でもあったターシャの数十冊にのぼる多数の作品のなかの一冊です。この本には、ターシャ自身の描いた美しくぬくもりのある挿絵—子どもたちや動物たち、そして四季の自然の情景—と、ワーズワース、コールリッジ、エマーソン、ソローなど、英米の作家や詩人の言葉が添えられています。ターシャは、電話を発明したグラハム・ベル、著名な作家マーク・トゥエインなども集うポストンの名家に生まれましたが、9歳の時に両親の離婚を経験し、15歳で農業に従事するようになったといいます。そして、23歳で結婚し、絵本作家としてデビューするとともに、4人の子どもに恵まれたましたが、46歳で離婚することになります。そして、50代半ばすぎに、バーモント州南部にある小さな町の郊外に移り住み、広大な庭のなかで、19世紀頃の開拓時代の暮らしを始めたのです。これが、ターシャの愛したコーギ犬の名からとられたコーギ・コテージです。18世紀の産業革命以来、人々はますます自然から遠ざかってきました。こうしたなかで、先に述べた人々はあらためて自然を身近に取り戻そうとした人たちです。彼らの影響を受けたターシャの自然のなかでのスローライフは、ゆきすぎた産業化・都市化のなかで、心と体とを疲弊させている人々の関心をひきつつあります。同じ書店からは、ターシャの娘ベサニー・テューダーによる『小径の向こうの家 母ターシャ・テューダーの生き方』（1999年）も刊行されています。

本学に入学されて、新たな人生の門出に立っているみなさんへ、本書に引かれたソローの『森の生活』中の言葉を贈りましょう。

夢に向かって自信を持って進み、  
思い描いた人生を生きようと努力するなら、  
思わぬ成功を手にするだろう。

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。図書館の利用について簡単に説明いたします。

開館時間 平日 9:00～20:00  
土曜日 10:00～17:00  
夏期 9:00～17:00

休館日 日曜日、国民の祝日・休日、本学創立記念日  
夏、冬期休暇中の一定期間、行事などによる臨時休館日  
開館時間の変更、臨時休館日などは、その都度お知らせします。

貸出方法 学生証と資料をカウンターに提示して下さい。貸出冊数は5冊以内です。

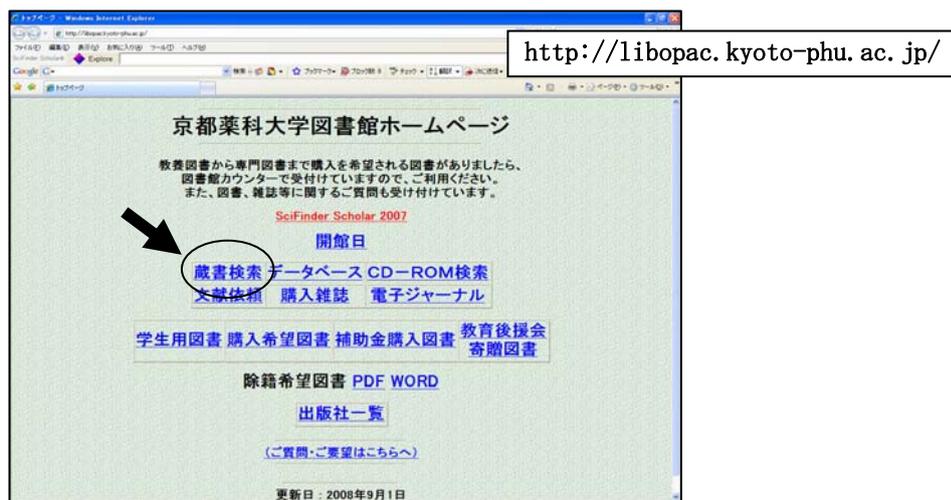
貸出期間 図書は2週間以内、学術雑誌、製本雑誌は1日です。

貸出予約 希望の図書が貸出中の場合は予約ができます。  
予約資料が返却されると、図書館前の掲示板にてお知らせします。

返却方法 借りた資料はカウンターへ返却して下さい。返却の際、学生証は不要です。  
延滞した場合は、延滞した日数×2の期間貸出を停止します。

## 【図書館蔵書検索(OPAC)】 学内のパソコンからWebで蔵書検索ができます

### <図書館HP>



### <検索画面>



## &lt;検索結果画面&gt;

各図書の裏表紙にバーコードシール貼付

図書の排架場所

図書の背表紙に貼付

437
B.8

請求記号の順に並んでいます

貸出できるかどうかわかります  
保管中：貸出可能  
貸出中：誰かが借りています  
禁帯：館外へ持ち出しできません

## 【図書館開館日程】

4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1	<b>2</b>		1	2	3	4	5	6
<b>5</b>	6	7	8	9	10	11	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	7	8	9	<b>7</b>	8	9	10	11	12	13
<b>12</b>	13	14	15	16	17	18	<b>10</b>	11	12	13	14	15	16	<b>14</b>	15	16	17	18	19	20
<b>19</b>	20	21	22	23	24	25	<b>17</b>	18	19	20	21	22	23	<b>21</b>	22	23	24	25	26	27
<b>26</b>	27	28	<b>29</b>	<b>30</b>			<b>24</b>	25	26	27	28	<b>29</b>	30	<b>28</b>	29	<b>30</b>				
							<b>31</b>													

臨時に閉館することがありますので、図書館掲示板を確認して下さい。

**太字**は休館日です。(4/30・5/29・6/30は、館内整理日)

## ク ラ ブ だ よ り

## ユーベルコール部

## 年間行事

- 4月 新歓コンサート
- 6月 京都合唱祭
- 8月 夏合宿
- 11月 定期演奏会
- 12月 クリスマス会
- 3月 春合宿

## 活動場所

6号館621講義室

## 活動時間

- 月～金曜日 12:40～13:10
- 木曜日 17:00～19:00

昨年の定期演奏会では、OBも参加する記念定期演奏会を行いました。また、他大学との交流も盛んです。

これからもユーベルコール部をよろしく願います。

## バドミントン部

## &lt;活動実績&gt; 2008年度

-関西薬学連盟-

- 女子団体 3位
- 女子個人 3位
- 女子新人戦 3位

## &lt;活動予定&gt; 2009年度

- 4月 京都リーグ(団体)
- 5月 四薬戦
- 8月 関西薬学連盟
- 10月 医師薬戦
- 11月 京都リーグ(個人)

## 硬式野球部

- 春期リーグ 7位
- 新人戦 4位
- 関西薬学連盟 2位
- 秋期リーグ 7位

## ドイツ留学記

4年次生 数馬 裕子

2008年の夏、IPSFの交換留学制度を使ってドイツのStadthagenにあるHagen薬局にインターンに行かせていただきました。IPSF(International Pharmaceutical Students' Federation)とは「薬学部生の集い」という団体の交換留学の部門です。京都薬科大学には「薬学部生の集い」に団体加盟しているPapaveraというサークルがあり、私はそこに所属しています。この場をお借りして、私の留学体験を簡単に紹介させていただきます。片言のドイツ語なので勘違いしているところがあるかもしれませんが……。

ドイツは医薬分業が進んでおり、病院内でさえも院内処方ではなく、全て院外処方になっています。その為、薬局の営業時間は都市により異なりますが、時間外営業制度があり平日はもちろん、土・日・祭日も含め24時間いつでもどこかの薬局が輪番制で開いている体制がとられています。いつでもどこが開いているかは毎週必ず新聞に掲載されるほか、薬局の入り口にも掲示される事になっています。私が行った町、Stadthagenには14軒の薬局があったのでお世話になったホストファミリーのハーマンさんの薬局も2週間に1度はオールナイト営業をしていました。

どこの薬局も医薬品はコンピューターで管理されておりバーコードリーダーの読み込みでの販売となっています。午前、午後共に営業時間が終わるまでに売れた数だけの薬を製薬会社に発注し、薬局内には常に同じ数の薬の在庫が保てるようになっていました。製薬会社からの配達は大体9:00、12:00、18:00と1日3回なので、患者さんは午前中に手に入らなかった薬でも夕方には購入する事ができる！という便利なシステムになっていました。

就業時間中は、コーヒー休憩が午前午後必ず各一回ずつありました。ハーマンさんは勤務後週に3日は奥様とバーに飲みに行っておられました。午後10時に「裕子、今から飲みに行こう!!」と誘われた時にはさすがにパスさせてもらいましたが、だいたいはご一緒させて頂いて、飲んで歌って踊る陽気なドイツ人と一緒になって国際交流をはかりました(笑)。何より羨ましいと思ったのは、ドイツでは長い夏休みに外国の別荘で過ごす人が多いと言う事です。ハーマン一家も私がお邪魔する直前に、スウェーデンで避暑休暇を1ヶ月過ごされたそうです。とても生活を楽しんでいらっしやいました。ドイツ人は厳格で勤勉であり遊びないイメージがありましたが、日本人よりはるかに上手に余暇を過ごしているという印象を受けました。

以上のような貴重な楽しい経験を私ができるの

も、桑形先生をはじめハーマン一家、そして多くの関係者の方々のお力添えがあったからこそ、皆さんに大変感謝しております。本当に有難うございました。



赤い“A”の看板が目印!  
ドイツの典型的な薬局

パソコンで薬の管理



ホストファミリーのパパ  
とお姉ちゃんと一緒に

パパとママと三女の私

## 2009年度入学試験結果について

日頃より本学職員の皆様をはじめ、本学在學生・卒業生の皆様のご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

2009年度の学部入学試験が終了しました。志願者数・合格者数は下表のとおりです。

高等学校の進路指導担当者及び受験教育専門機関等の情報によると、少子化の進展はもとより、2008年秋以降の経済の危機的状況のあおりを受け、経済的負担の少ない国公立大学や6年制薬学部以外の4年制学部への志向が強まったこと等の影響で、2009年度も引き続き、薬系私立大学への志願者数が前年を割り込むとの予測が大勢を占めていました。

本学への全体の志願者数は、前年比92.1%となりました。(2008年度は、前年比101.1%)

2010年度につきましても、引き続き本学への志願者数の確保にご尽力賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

	募集人員	志願者数	合格者数
一般公募制推薦	83名	366名	101名
一般入学試験A方式	30名	711名	281名
一般入学試験B方式	180名	1231名	536名
一般入学試験C方式	5名	65名	26名

(以上のほか、指定校制推薦入試を実施しています。合格者数は3月14日現在)

### 2009年度大学院博士後期課程(冬季募集) 入学選考結果

2009年度大学院博士後期課程(冬季募集)入学選考を1月28日(水)に実施し、同日、合格発表を行いました。

博士後期課程(冬季募集)の志願者数・合格者数等は下表のとおりです。

○2009年度博士後期課程(冬季募集)入学選考結果  
(単位:人)

志願者数	受験者数	合格者数
4	4	4

### International Symposium on Integrated Medicinal Science - On the basis of traditional medicine to biomolecular system -

本学21世紀COEプログラム、本学創薬科学フロンティア研究センター、本学オープン・リサーチ・センターが主催する標記の国際学会が、2008年12月13日、本学愛学館にて開催されました。午前中はYoung Investigators' Mini Symposiumの枠が設けられ、本学21世紀COEプログラムの「若手研究者の会」メンバーを中心に、英語による16題の発表が行われました。海外からは、E. Freire教授(ジョーンズ・ホプキンス大学、米国)、J. Martinez教授(モンペリエ大学、フランス)、国内からは饗場弘二教授(名古屋大学)、深水昭吉教授(筑波大学)を招待講演に迎え、10題の一般口演、63題のポスター発表が行われる中、参加者が200名を優に超える有意義な学会となりました。

なお、Young Investigators' Mini Symposiumで優れた発表を行った若手研究者には優秀発表賞が、その中でも特に優れた発表には最優秀発表賞が授与されました。



### 統合創薬科学フロンティアシンポジウム ～伝承薬から生物分子システムまでを基盤として～

本学21世紀COEプログラム、本学創薬科学フロンティア研究センター、本学オープン・リサーチ・センターが主催する標記のシンポジウムが、2008年12月14日、本学愛学館にて開催されました。学外から、小林資正教授(大阪大学)、橋本祐一教授(東京大学)、今西武教授(大阪大学)、二木史朗教授(京都大学)、寒川賢治所長(国立循環器病センター研究所)をお招きし、本学の吉川雅之教授(生薬学分野)、木曾良明教授(薬品化学分野)と共に、計7つの講演が行われました。会場では活発な討論が繰り広げられ、160名以上集まった参加者を魅了しました。



## 受賞

### 日本薬学会近畿支部 平成20年度支部奨励賞

2008年12月、日本薬学会近畿支部では平成20年度支部奨励賞の受賞者(4部門8名)を決定し、化学系部門では、薬品製造学分野の小関稔助教、薬品化学分野の谷口敦彦さん(博士後期2年)を含む3名が受賞しました。表彰式は2009年1月9日、からすま京都ホテルにて執り行われました。

受賞対象となった研究: 小関助教「Tandem型反応による多連続不斉炭素の立体選択的構築法の開発」、谷口さん「*o*-アシルイソペプチド法」を基盤とした「クリックペプチド」: 刺激に応答したアルツハイマー病関連アミロイドβペプチドの産生」



表彰式での谷口さん(左)と小関助教

## お知らせ

### 他大学の科目・講座を受けてみませんか!!!

#### 【単位互換制度】

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しており、京都地域を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定されます。(2008年度は43大学から488科目が提供されました)つまり、京都薬科大学に在籍しながら他大学の授業を受講することができるわけです。修得した単位は、1年間2科目4単位を限度として、本学の卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算され、それを超えて履修した科目の単位については、自由科目として認定されます。(本学での取扱いについての詳細は、学生便覧及びシラバスを参照して下さい)

単位互換制度の特徴として、

- ①講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が10テーマに分類され提供されている。
- ②講義形態は持出講義と既存講義があり、持出講義は集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されている。
- ③持出講義の開講場所は、大学交流センターの「キャンパスプラザ京都」(京都駅前)にて開講される。
- ④講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がる。
- ⑤受講生には単位互換履修生として身分証明書が発行され、科目開設大学の図書館等を利用することができる。
- ⑥全ての科目を無料で受講できる。(ただし、科目によっては、参考書等テキスト代が必要)などという点も、この制度の大きな特徴と言えるでしょう。

受講の申し込みは、前期・集中・後期科目とも4月8日(水)まで教務課で受け付けます。詳しい授業概要等については教務課にて配布している「単位互換履修生募集ガイド」を見て下さい。

また、大学コンソーシアム京都ではホームページ上で単位互換科目のシラバスを公開しています。

<PC><http://www.consortium.or.jp/student/tan-i/>  
<携帯><http://cs.consortium.or.jp/student/m/>

科目開講時には休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。

## 奨学金のご案内

大学で借りることができる奨学金は、①日本学生支援機構奨学金 ②京都薬科大学奨学金(大学独自の奨学金) ③地方自治体の奨学金 ④企業・団体の奨学金に大別できます。

それぞれについて、以下に簡単に説明します。

#### ①日本学生支援機構奨学金

「第一種奨学金」(無利子)と「第二種奨学金」(有利子)の二種類の奨学金があります。

4月初旬に、説明会を実施しますので、希望者は必ず出席して下さい(詳細は奨学金関係掲示板に掲示)。

奨学生に採用されると、卒業するまで奨学金が貸与されます(ただし留年及び休学中は停止)。

なお、1年次生で奨学生に採用されなくても、2年次生以上の各学年で再び申請することができます。

#### 【基本月額】

何れかの希望月額を選択できます。

##### ○第一種奨学金(無利子)

- ・学 部 3万円(自宅、自宅外)、  
5.4万円(自宅)、6.4万円(自宅外)
- ・修士、博士前期 8.8万円
- ・博士後期 12.2万円

##### ○第二種奨学金(有利子)

- ・学 部 3万円, 5万円, 8万円, 10万円, 12万円  
(12万円を選択した場合は、2万円の増額希望可能)
- ・大学院 5万円, 8万円, 10万円, 13万円, 15万円

##### ○入学時特別増額貸与奨学金(有利子)

大学、大学院の第1学年において日本学生支援機構が定めた年月を始期として奨学金(第一種・第二種)の貸与を受ける者が対象。

- ・10万円, 20万円, 30万円, 40万円, 50万円

#### ○緊急・応急採用奨学金

出願の1年以内に家計を支えている者が、失職・破産・会社の倒産・病気・死亡等により家計が急変したため緊急に奨学金の必要が生じた場合に随時受け付けています。

#### ②京都薬科大学奨学金(無利子貸与)

- ・学 部 年額 授業料の1/2 以内
- ・大学院 年額 70万円以内

学部生・大学院生併せて20名程度を募集します。9月の下旬に、説明会を開催しますので、希望者は必ず出席して下さい(詳細は奨学金関係掲示板に掲示)。

決定するのは11月初旬の予定で、同月下旬には、奨学金を一括支給します。原則として、1年限りの奨学金です。

#### ③④地方自治体、企業・団体の奨学金

これらの奨学金は、学生課を通じて募集するもの

については、募集の都度掲示板に掲示します。ただし、直接それら団体が募集するものについては、各自地元の教育委員会等にお問い合わせ下さい。

以上簡単に説明しましたが、奨学金に関する質問などがありましたら、早めに学生課へお問い合わせ下さい。

### 学生相談室のご案内

充実した学生生活を送るために、学業のこと、家族のこと、友だちのこと、自分のこと・・・。

どんなことでもお気軽にご相談ください。精神科医および臨床心理士による相談室があります。

相談内容について、秘密は全て守られます。

学生相談室担当

精神科医1名(月1回、詳細日程は毎回掲示にて確認してください)

臨床心理士2名

日 時:毎週火曜日午前10時から午後2時まで  
毎週金曜日午前11時から午後3時まで

場 所:愛学館1階 医務室内カウンセリングルーム

相談方法:医務室で相談日時の予約をしてください。

受 付:学生課・医務室

連絡先： 学生課 075-595-4614 (直通)

### 不審な問い合わせにご注意下さい！

最近、学生の実家へ京都薬科大学の職員などと称し、「下宿の住所」や「携帯電話の番号」を聞き出そうとする不審電話が頻発しています。

本学では、学生の個人情報に関するこのような問い合わせは、一切行っておりません。

このような問い合わせ電話には、「答えられない」とはっきり拒否していただくとともに、お手数でも学生課にご連絡いただきますようお願い致します。

連絡先： 学生課 075-595-4614 (直通)

### 2008年度学位記(博士・修士)及び卒業証書・学位記(学士)授与式

2008年度学位記(博士・修士)及び卒業証書・学位記(学士)授与式を、3月20日(金)午前10時から中央講堂兼体育館で執り行いました。

大学院博士後期課程8名、博士前期課程59名、修士課程13名に学位記(博士又は修士)、学部薬学科126名、製薬化学科110名、生物薬学科108名に卒業証書・学位記(学士)、また学長賞として成績優秀者に賞状と記念品が、西野学長から授与されました。

今年も多くのお客様の方々やご父母の列席を賜り、

田村理事長、西野学長はじめ教職員の暖かい祝福に送られ、皆元気に慣れ親しんだキャンパスを巣立っていきました。

式終了後、午後1時より、本学中央講堂兼体育館で、「卒業記念祝賀会」が開催され、卒業生、ご父母、また、本学卒業30周年を迎える昭和54年卒業生を交え、楽しいひと時を過ごしました。

### 学位記(博士)授与式

3月20日11時30分から愛学館第1会議室において、2008年度課程博士9名及び課程によらない博士(後期)7名に、西野学長から学位記が授与されました。

### 人 事

昇任

2009.4.1付

生命薬科学系生化学分野 准教授 山岸 伸行  
採用

2009.4.1付

病態薬科学系臨床腫瘍学分野

教授 吉貴 達寛  
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター  
教授 矢野 義孝  
基礎科学系健康科学分野 准教授 長澤 吉則  
薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センター

(創薬科学系薬品製造学分野兼務)准教授 細井 信造  
病態薬科学系病態生化学分野 助教 石原 慶一  
医療薬科学系薬物動態学分野 助教 伊藤由佳子  
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター

助教 松村千佳子  
事務局施設課 主 査 佐々木善文  
事務局施設課 主 事 立藤 政信  
事務局学生課 主 事 平野 訓子  
事務局会計課 主 事 坂口由美子

配置換

2009.4.1付

薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センター  
講師 隅田 芳男  
(図書館図書課)

退職

2009.3.31付

生命薬科学系衛生化学分野 教授 藤本 貞毅  
生命薬科学系公衆衛生学分野 教授 平山 晃久  
病態薬科学系薬理学分野 教授 河野 茂勝  
薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センター

教授 井上 武久  
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター  
教授 金澤 治男  
医療薬科学系臨床薬学分野 講師 高良 恒史  
医療薬科学系薬物動態学分野 助手 福島 恵造  
事務局施設課 事務局参事 稲本 浩一

## 京薬会だより

### <卒業教育講座>

2009年度卒業教育講座は、大学キャンパスで開講する講座(卒業教育A)とともに、新たにインターネット配信による講座(卒業教育B)を開講します。

卒業教育Aは、例年通りのスケジュール(5～9月開講)で実施します。また、卒業教育Bは、主として卒業教育Aのビデオ映像をインターネット経由で受講希望者にストリーミング配信(録画できない配信)するもので、11～12月に実施します。詳細は、後日京薬会ホームページ(<http://www.kpu-aa.com/>)・葉業紙等で案内します。卒業教育Aはこれまで近畿在住の卒業生を主な対象として実施されてきましたが、卒業教育Bの導入により全国の卒業生の在宅受講が可能となり、その成果が期待されます。

### <2009年度京薬会代議員総会>

2009年度代議員総会が5月23日(土)午後15時に愛学ホールで開催されます。また、午前中には代議員総会に先立って支部長会が行なわれます。

### <京薬会新ホームページ開設>

機能性を増した京薬会新ホームページが <http://www.kpu-aa.com/> に開設されました。新ホームページの会員専用ページへ入るには ID, PWが必要です。会員および本学学生の皆様には、ログインページにある登録フォームに必要な事項を記入、送信してID, PWの発行を受けた後、アクセスして下さい。京薬会では内容の更新、興味ある内容の作成に努めて参ります。

### <寄附金の贈呈>

臨床薬学教育研究センターの竣工祝いとして、フィジカルアセスメントモデル一式購入費300万円が1月24日(土)太田会長から田村理事長に手渡されました。

### <京薬会賞の授与>

3月20日(金)卒業式当日、恒例の卒業祝賀会が中央講堂兼体育館で盛大に行われましたが、20年度より新設された京薬会賞の授与式が祝賀会の冒頭行われました。20年度の京薬会賞は、学生自治会長等を務め在学中に顕著な活躍をした杉山雅彦さん(4年次生)に太田会長から副賞とともに授与されました。

## 京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

### 2008年12月に寄附をお寄せいただいた方々

#### <卒業生・同期会等>

五・五会 (昭32卒)  
洛楽会 (昭29卒)

#### <教育後援会会員>

#### <企業・団体>

#### <法人役員・評議員・教職員>

石黒 博直(評議員) 西野 武志(学長)  
武田 禮二(常任理事) 村澤 悟(事務局長)  
田村 正昭(理事長)

### 2009年1月～3月に寄附をお寄せいただいた方々

#### <卒業生・同期会等>

荒石 悦子(昭47卒) 竹田奈保美(昭56卒)  
井岡 万純(昭49卒) 谷口 睦子(昭42卒)  
石黒 道彦(昭19卒) 丹所 稔(昭51卒)  
今村 浩(昭38卒) 突合 皐月(昭41卒)  
今村 薫子(昭38卒) 辻 勝蔵(昭34卒)  
上田 啓三(昭32卒) 戸井 豊子(昭47卒)  
扇谷 年昭(昭50卒) 富永 勲秀(昭43卒)  
大杉 三郎(昭16卒) 中川 知秀(昭31卒)  
太田 俊作(昭40卒) 中嶋 澄江(昭50卒)  
川崎 昌義(昭42卒) 長屋ちとせ(昭56卒)  
久保 巖(昭14卒) 西野 哲夫(昭23卒)  
久保田光二(昭23卒) 野原 基司(昭53卒)  
栗尾和佐子(昭58卒) 福井美代子(昭31卒)  
厚東 正子(昭41卒) 藤本 國勝(昭39卒)  
小財 勲(昭24卒) 藤本 恒子(昭41卒)  
柴田 公見(昭62卒) 牧 敬文(昭28卒)  
末永 克己(昭19卒) 松村 郁治(昭36卒)  
高越 清昭(昭44卒) 松本 直之(平20卒)

#### <法人役員・評議員・教職員>

蘆田 康子(理事) 田村 正昭(理事長)  
上西 潤一(教授) 野出 學(副学長)  
北出 達也(教授) 浜崎 博(教授)  
桑形 広司(准教授) 村澤 悟(事務局長)  
河野 茂勝(教授) 森田 和子(評議員)  
後藤 直正(教授) 渡辺 徹志(准教授)

#### <教育後援会会員>

岡田 代吉  
屋木 利之

#### <企業・団体>

武田薬品研究所  
有志一同  
薬品製造学分野  
匿名希望 2社

\* 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

\* 敬称略、ご芳名のみ五十音順に掲載しております。

2009年3月10日現在